



とたより Pick Up!

01 ALL.presents あーとのとびらをひらく展覧会シリーズ01 小松宏誠 光と影のモビール けしきと歌 Kosei Komatsu Exhibition: Light and Shadow Mobiles Installation - Scenes and Songs



小松宏誠氏提供

「A.L.L.presents あーとのとびらをひらく展覧会」は、子どもたちをはじめとするすべての方々に多様なアートと出合っていたくことを目指して、教育普及の拠点であるA.L.L.が企画する展覧会です。シリーズ1回目は、動きと光と影が織りなすインスタレーションを制作するアーティスト、小松宏誠（こまつ・こうせい）氏をお招きします。

02 ようこそ！ティーモア市場 ～文化の日、ティーモアの秋～



11月3日[月・祝]
10:00-16:00
会場：エントリープラザ

秋の三連休の最終日、美術館前の市場が、県内外からやってくるみんなを「ようこそ！」と迎えます。歩き疲れたらひと休み、お腹が空いたら美味しいもの食べて。せっかくだから面白いもの見て、遊んでいって。訪れるあなたも迎えるあなたも、美術館がもっと楽しくなる場所。それが「ようこそ！ティーモア市場」です。
※出店者は決まり次第ウェブサイトやSNSでお知らせします。
※美術館の中での飲食はできません。

03 没後70年 日本画家・中島菜刀展 鳥取県立美術館 コレクション展PLUS



前編 8月5日[日]～9月28日[日]
後編 10月9日[木]～12月7日[日]
色彩豊かで抒情的な作品の数々を発表し、院展で活躍した鳥取県出身の日本画家・中島菜刀（1902-55）の没後70年を記念し、青年期を中心とする前編、晩年までの後編に分けてその画業をご紹介します。

04 ひらいてみるみるコレクション 月1開催



何かをつくったり、身体を動かすワークショップをしたり、みんなでコレクション・ギャラリーへ作品を見に行ったりします。展示室デビューのきっかけにもおすすめ。

対象：4歳～中学生まで
※小学3年生以下は保護者の方と参加してください。

内容は毎月変わるのでお楽しみに！詳細はHPにて。



けんびのススメ

その1 アート鑑賞編

鳥取県立美術館（けんび）がもっと身近になるコーナー。今回はアート鑑賞のおススメを紹介します。



表紙の一枚

鳥取県立美術館6月のできごと 美術館の“えんがわ”が カラフルに色づきました

6月14日[土]、15日[日]の2日間、色水のワークショップを開催しました。細長い袋に、赤・黄・青の色が染み出る不思議な紙と適量の水を入れシャカシャカと振るとカラフルな色水の出来上がり！涼



やかで鮮やかな色水が、梅雨の時期の美術館をカラフルに彩りました。

思い思いの色で、子どもも大人も一緒に楽しみながらつくった色水は1か月程展示され、来館者の目も楽しませました。

03

みんな“と”つくる 鳥取県立美術館の 活動通信



2025
6/14[土]
小雨
☁

赤・黄・青の色水をついて、カラフルな色水が、梅雨の時期の美術館をカラフルに彩りました。

The花鳥画をちょっと深ぼり
花鳥画ってなあに？／担当学芸員の推し作品！
—
とたよりPick Up!
けんびのススメ／表紙の一枚

10月からはじまる秋の企画展

花鳥画展の見どころをご案内！



ちょっと
を深ぼり

花鳥画ってなあに？

「花鳥」と聞けば、まず「花鳥風月」という言葉が思い浮かぶと思います。この言葉を聞くと四季の移ろい、美しい自然の情景をイメージするのではないのでしょうか。

では、「花鳥画」ではどうでしょうか？ これまた色とりどりの花、小鳥などが描かれた華麗な作品が思い浮かぶと思います。中にはその絵の中に動物や昆虫が登場している、という人もいるかもしれません。これが「花鳥画」の面白いところで、この言葉は文字通りの花・鳥だけではなく、草木（植物全般）・獣（動物）・虫（昆虫や爬虫類など）・魚を含む、あらゆる動植物を主題とした作品を指して、ざっくりと使われてきた歴史があるのです。ということで、この展覧会では（多少の無理はありますが）こうした作品全般を「花鳥画」と捉えることにします。

さて、先ほどの「花鳥風月」という言葉は室町時代に世阿弥が書いた『風姿花伝』が初出とされ、四季折々の美しさを愛で、それを詩歌や絵画で表し、味わうという意味までが含まれます。カメラのない時代、目の前にある自然の美しさに心動かされたとき、ある人は文学作品で、またある人は絵画作品でその情景を留めようとしたのです。和歌の世界から生まれた「秋の七草」や「紅葉に鹿」など、特定の動植物モチーフを組み合わせた画題は、こうした文学と絵画が融合した結果とも言えるでしょう。その一方、花鳥画発祥の地・中国の伝統では吉祥（おめでたい兆し）を表現するということも重要な



岡本秋暉《百花一瓶図》／ 摘水軒記念文化振興財団

ポイントでした。例えば、こうした伝統に倣った岡本秋暉《百花一瓶図》をご覧ください。四季の花々が同時に咲き揃うという、現実世界ではあり得ない現象が起きています。ここでは、今を盛りと咲く四季の花々が「栄華」を、四季が揃うことが「永続」を象徴しています。花が生けられている花瓶の「瓶」は「平」と同じ発音であることから、この絵は「平和と繁栄が末永く続きますように」という願いを表すことになるのです。え、最後がダジャレっぽいて？ いやいや、ダジャレも重要なのですよ。つまり花鳥画はただ美しいだけではダメ、とまでは言わないまでも、こうした吉祥的な寓意（特定の意味がほのめかされること）も鑑賞のポイントとなる、ということ覚えておいてください。

花鳥画が成立して約1300年。宋の時代に完成した華麗な花鳥画のスタイルが日本へと伝わり、日本の花鳥画はこれらに倣いながら独自の発展を遂げました。室町時代には金地の屏風や襖が登場して不動の人気ジャンルとなり、江戸中期以降には掛軸や版本を中心とする小画面作品が庶民から愛好され、受容層の広がりとともにエンタメ性も獲得。工芸分野も含めてまことに多種多様な花鳥画作品が生み出されるに至ります。この展覧会では、そんな江戸期の花鳥画作品を中心にご覧いただきます。では、どのような作品がご覧いただけるのか、右のページで少しだけご紹介することにしましょう。

文：学芸員・山田修平

10月11日（土）から企画展「The 花鳥画 ー日本美術といきものたちー」がはじまります。ここでは展覧会のタイトルにもなっている「花鳥画」について、担当学芸員によるエッセーや、イチ推し作品を紹介。めでたし、うるわし、ときにいさまし！？ 多彩な「花鳥画」の世界へご案内します。

担当学芸員の

推し作品！

#めでたし！

虫いっぱいじゃだめですか？

虫しか勝たん

➡ 草花や虫で吉祥を表す中国の「草虫図」を、日本風にした作品。四季の花々と昆虫が描かれる。たらしこみや付け立てを駆使し、写実と装飾がほどよく織り交ぜられている。本展が修復後初のお披露目。

#うるわし！

牛ーっ！

➡ ご覧あれ、このドヤ顔！ 牛の美丈夫といったところか。あえて下半身を描かず、鑑賞者にその巨大さを想像させる手法により迫力満点である。その一方、藍で彩られた青い瞳は美しく、底知れない魅力に引き込まれそうになる。



長沢芦雪《牛図》／ 鉄斎堂



狩野山雪《龍虎図》

#いさまし！？

江戸初期のギャップ萌え

➡ 龍虎といえば勇ましきの代表...の、はずなのだが、上目遣いのかわいい虎がちょこんと前足を揃えてお行儀よく立っている。龍もどこを見ているかわからない表情。キレッキレな波の表現と比べてギャップがすごい。

The 花鳥画ー日本美術といきものたちー

会期 2025年10月11日[土]～11月24日[月・祝]
※展示替あり 前期:10月11日[土]～11月3日[月・祝]
後期:11月6日[木]～11月24日[月・祝]
休館日:月曜日(10/13、11/3、24は開館)、10/14[火]、11/4[火]、5[水]※
※11/5[水]は閉室日(美術館は開館)
会場 鳥取県立美術館 3F企画展示室
時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)
料金 一般 1,200円(950円) 学生 750円(600円)
高校生 500円(400円) 小中学生 300円(240円)
※()内は前売・20名以上の団体料金
※未就学児・障がいのある方・難病患者の方・要介護者等及びその介護者は無料
※企画展チケットで当日コレクション展もあわせてご覧いただけます

主催:The 花鳥画展実行委員会
(鳥取県、鳥取県立美術館パートナーズ、TSKさんいん中央テレビ)

関連イベント「一日限定！錦秋TMOA寄席」

落語の中にはたくさんの動物たちが登場します。今回は地元で活躍する落語家・桂小文吾さんをお招きし、本展覧会にちなんで「ねずみ」「抜け雀」ほか、4席の落語をかけていただきます。

出演 桂福枝・桂小文吾
日時 11月2日[日]【午前の部】10:30～11:45
【午後の部】14:00～15:15

場所 鳥取県立美術館1Fスタジオ2・3
定員 80名(事前申込不要)
料金 有料

イベントの最新情報については
HPをご確認ください



桂福枝(かつら・ふくし)
高松市出身。2012年に桂文福に入門。2023年に大師匠・五代目文枝の「枝」と、師匠・文福の「福」の字を頂き、福枝へ改名。現在は関西・中四国を中心に活躍。



桂小文吾(かつら・こぶんご)
鳥取市出身。立川談幸に入門後、桂小文吾(当時、現・桂文吾)に師事。2022年に師匠の名跡であった小文吾に改名し、現在は鳥取県内を中心に活躍。